

これまでのとりくみ(P・D)

## 【めざす児童の姿】

- ・自分の考えに自信を持ち、表現し合うことができる。
- ・友だちとの交流の中で学びを深め、生きてはたらく学力を獲得できる。
- 長南タイムプリント(漢字の書きと算数の復習問題) ○週末学習(サポートタイム)
- 学期の始めと毎週水曜日に読書タイム ○保護者への啓発「チーム新聞」の発行
- 学期終わり(1,2学期)のスキルアップルーム(希望者)
- 単元の学習定着のためのチャレブリ(チャレンジプリント)の実施
- 到達テスト(7・12・2月)の実施と分析<漢字・計算・文章問題>
- 国・算まとめテストの実施(学期末)と正答率の分析
- やる気ノート博覧会(自主学習ノートの充実)
- GIGA 端末を使った家庭学習の実施やタイピング技術向上のとりくみ、AI 型ドリル教材の導入
- 大阪の授業づくりSTANDARDに基づく授業の展開に、「わくわくタイム」「もくもくタイム」「チャンスタイム」「ぐっとタイム」を設け、非認知能力を育成

## 教科の結果より

## 【国語】

- ・問題と資料が同じページにあるとじっくり考えて答えを導き出すことができる。
- ・漢字の定着に課題がある。漢字の意味を理解し、既習の漢字を使って文章を作成するなどの学習が必要である。
- ・最も適切なものを選ぶ際、どのように答えを導き出すのか、考え方や解き方をたくさん経験することも必要である。

## 【算数】

- ・文章理解に課題がある。国語力・読解力の向上が必要である。
- ・グラフの数値の読みとり課題がある。資料を読みとり、活用する力の向上が必要である。
- ・割合の学習では、何をもとにするのかなど、問題文からイメージすることが苦手である。

## 【理科】

- ・前学年で既習したことの誤答が多く、学習の積み重ねに課題がある。
- ・観察や実験結果から学んだ内容を実際の生活と結び付けて理解していく力の育成が必要である。

## 児童質問より

- ・朝食を毎日食べていない割合は約2割。
- ・「自分には、よいところがあると思う」の質問に対して、肯定的回答が平均よりかなり低い。(72.9%)
- ・「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童が多い。(85.4%)
- ・家庭学習の時間、読書時間が少なく、好きだと感じている児童が少ない。
- ・ICT 活用に対して肯定的に考えている。
- ・ICT を活用することにまだ自信は持てないが、楽しんで、自分のペースで学習が進められると感じている。
- ・ICT を活用することで、友だちと協力しながら学習を進めることができると感じている。(87.5%)
- ・国語や算数に比べて、理科の勉強が好き、得意と感じている割合が少ない。

これまでのとりくみの結果、言語力・数字力・コミュニケーション力・問題解決力の育成が必要である。問題解決型学習に加え、非認知能力の育成を意識した授業づくりに引き続きとりくんでいく。

全学調の結果より見えた課題から、以下のようなとりくみを進める。

- ① 読解力を鍛える(要約する・音読する・語彙を増やす・読み聞かせや読書を推進する)
- ② 情報活用能力をつける(表やグラフなどの読みとりや複数の資料の比較、相手意識や目的意識を明確にした表現活動)
- ③ 自主学習・家庭学習を充実させる(GIGA 端末を使用し、AI 型ドリル教材を活用)

全国学力・学習状況調査の結果より(C)

これからのとりくみ(A)